

この10年間における指定野菜14品目の生産動向

# 業務対応品目が増加

## 指定野菜生産動向 果菜類の減少顕著に

品目	2013年産				2003年産				2003年度比(%)			
	作付面積	10ア当たり収量	収穫量	出荷量	作付面積	10ア当たり収量	収穫量	出荷量	作付面積	10ア当たり収量	収穫量	出荷量
ダイコン	33,700	4,320	1,455,000	1,169,000	41,500	4,230	1,752,000	1,334,000	81.2	102.1	83.0	87.6
ニンジン	18,500	3,260	603,200	535,300	20,300	3,250	658,900	576,400	91.1	100.3	91.5	92.9
ジャガイモ	79,700	3,030	2,412,000	2,004,000	88,300	3,330	2,939,000	2,401,000	90.3	91.0	82.1	83.5
サトイモ	13,000	1,250	162,100	102,700	16,400	1,280	209,400	124,800	79.3	97.7	77.4	82.3
ハクサイ	17,800	5,090	906,400	730,700	20,700	4,670	964,500	727,500	86.0	109.0	94.0	100.4
キャベツ	34,300	4,200	1,440,000	1,276,000	34,400	4,010	1,376,000	1,179,000	99.7	104.7	104.7	108.2
ホウレン草	21,300	1,170	250,200	207,900	24,300	1,280	311,800	251,000	87.7	91.4	80.2	82.8
レタス	21,300	2,720	579,100	547,200	22,000	2,490	548,600	508,000	96.8	109.2	105.6	107.7
ネギ	22,900	2,080	477,300	380,500	23,600	2,180	514,600	396,700	97.0	95.4	92.8	95.9
タマネギ	25,200	4,250	1,070,000	942,100	23,500	4,990	1,172,000	1,025,000	107.2	85.2	91.3	91.9
キュウリ	11,400	5,040	574,900	487,900	14,100	4,850	684,100	572,200	80.9	103.9	84.0	85.3
ナス	9,700	3,310	321,200	245,900	12,000	3,290	395,800	292,700	80.8	100.6	81.2	84.0
トマト	12,100	6,180	748,300	671,200	13,200	5,750	759,900	669,000	91.7	107.5	98.5	100.3
ピーマン	3,360	4,320	145,100	126,200	3,760	4,030	151,500	128,800	89.4	107.2	95.8	98.0
(参考)41品目計	481,200	—	13,556,000	11,455,000	528,200	—	15,169,000	12,419,000	91.1	—	89.4	92.2

農水省調査(作付面積=ア、10ア当たり収量=キ、収穫量・出荷量=ト)、レタスにはサラダ菜等、トマトにはミニトマト含む)

野菜生産はダイコン、ジャガイモなどの重量野菜やハウスの暖房費がかさむキュウリ、ナスなどが年々減少しているが、増加傾向の品目もある。指定14品目では業務用需要が増加しているキャベツ、軽くて高齢農家にも負担が少ないレタス類など。国産需要が高まっているタマネギは作付面積は大きく増えているものの、主産地の不作で収穫量は減少。

また、10ア当たり収量は多くの品目で増加しており、ハクサイやレタスは1割近い増加。さらに出荷量については収穫量ほど減少しておらず、減少幅には最大6ポイント程の開きがある。栽培技術、資材、種・苗の品質向上で作付減をカバーしているほか、規格外品の活用も進んでいるものとみられる(参考の41品目には指定野菜以外含む)。